

# 公共図書館における評価の“利用”

筑波大学大学院  
図書館情報メディア研究科  
博士後期課程 田辺智子

第65回日本図書館情報学会研究大会

2017.11.5

# 研究の背景と目的

# 研究の背景①

## ■ 公共図書館では評価が努力義務化

公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準(2001)  
図書館法改正(2008)

## ■ 評価実施率

<2008年度文科省委託調査(みずほ情報総研 2009)>

都道府県立図書館: 自己評価 46%, 行政評価等 20%

市区町村立図書館: 自己評価 20%, 行政評価等 49%

<2015年度文科省委託調査(図書館流通センター 2016)>

市区町村立図書館: 58%

⇒ 図書館評価はどのように活用されているのか？

# 研究の背景②

## ■ 評価における課題

<2008年度文科省委託調査(みずほ情報総研 2009)>

「評価結果の具体的な活用」が課題だと回答した館

都道府県立図書館: 81.5%

市区町村立図書館: 55.2%

## 研究の背景③

- 政策評価の分野では、評価の“利用”に焦点を当てた研究が発展。
- 1970年代から「評価利用」(evaluation use)の研究が蓄積され、理論化が進展。利用の類型、利用に影響を与える要因等。
- 2000年代以降は、評価の影響をより広く捉える「評価影響」(evaluation influence)という概念が提起されている。

# 研究の目的

政策評価における評価利用や評価影響の理論をベースに、公共図書館における評価の利用・影響の実態を明らかにする。

# 評価利用と評価影響の理論

# 評価利用の理論

- 1970年代から評価学の分野で発展。
- アメリカの社会政策において普及した評価が、意図したように利用されなかったことが出発点。
- 多数の実証研究を蓄積。
  - Cousins and Leithwood (1986)
  - Shulha and Cousins (1997)
  - Johnson et al. (2009)



# 評価利用の類型

類型	性格
道具的利用 (instrumental use)	施策の改廃・見直しなどの特定の意思決定に、評価が直接的に反映される。
概念的利用 (conceptual use)	直接的な行動とは結び付けられないが、評価が関係者の認識に浸透し、意思決定の情報源の一つとなる。
象徴的利用 (symbolic use)	既存の立場の正当化や、組織の合理性を示すために評価が用いられる。

※利用の対象としては、評価の結果のみでなくプロセスが利用される場合がある。(プロセス利用)

※制度的な要求があるために評価が利用される場合がある。  
(強制的利用)

# 評価影響の理論

- 2000年代以降に発展。
- 「評価利用」の概念を拡張。間接的・非意図的・長期的な効果を含める。
- 「評価影響」のプロセスを分析するためのモデルが提示されている。  
Mark & Henry (2004)
- 何らかの形で社会改善につながるものを「評価影響」と定義。

# 評価影響のモデル

<Mark & Henry (2004)>

- 分析レベル

3レベル： 個人—個人間—集合

- 評価が社会改善をもたらすプロセス

① 認知・感情的プロセス (概念的利用と親和的)

② モチベーション的プロセス

③ 行動的プロセス (道具的利用と親和的)

# 研究の方法

# 本研究の分析枠組み

- 図書館評価が、公共図書館の組織内部に与える影響について質的な分析を行う。
- 分析レベル  
2レベル： 職員－組織
- 評価影響のプロセス
  - ① 認知・感情的プロセス
  - ② モチベーション的プロセス
  - ③ 行動的プロセス

# 対象館の選択

- 図書館評価に十分な経験を持ち、評価影響が観察できる館
    - ・ 図書館評価の導入後、5年以上経過
    - ・ 文献その他の情報源から、評価が有効に機能していると推測できる
    - ・ 直営館を対象とし、館種・規模等が多様になるように留意
- ⇒ 文献調査をもとに4館抽出、スノーボール・サンプリングで3館を追加

# 調査の概要

- 調査期間：2016年9～11月
- データ収集方法：半構造化インタビュー
- 質問項目：
  - 評価の実施状況・体制
  - 評価結果の利用状況
  - 評価の課題・問題点 等
- 調査対象者：評価取りまとめ担当者（可能であれば管理職者・一般職員も）

# 対象館

	設置者	職員数 (人)	外部評価	調査日	調査 対象者数
A館	都道府県	110	無	9/29, 1/5	5人
B館	都道府県	70	有	11/18	2人
C館	都道府県	100	無	9/9	2人
D館	政令指定都市	200~	無	11/2	3人
F館	中核市	90	有	11/25	2人
G館	中核市	130	有	9/10	3人
I館	市町村	20	無	10/29	2人

\*職員数は『日本の図書館 2016』（日本図書館協会，2017）を基にし、概数で示した。



# 分析方法

- 逐語録を作成し、評価影響が観察される発言を抽出。
- 抽出された発言を職員レベル・組織レベルに区分けし、以下の3種類に分類。
  - ①認知・感情的プロセス
  - ②モチベーション的プロセス
  - ③行動的プロセス
- 「課題の認識」「事業見直し」等、その評価影響の性格を表すコードを付与。

# 調查結果

(表2参照)

# 認知・感情的プロセス

## <職員レベル>

- 評価による様々な“気付き”  
(課題の認識、業務への理解向上、全館的視点、経営的視点)

## <組織レベル>

- 「評価は全職員には浸透していないと思う。...ただ、やはり担当者や係長クラスは意識するのではないか」(E館)  
⇒ 評価影響は、評価への関わりのできる職員を中心に生じていた。

# モチベーション的プロセス

## <職員レベル／組織レベル共通>

- 改善の意識付け
- 目標達成の意識付け

## <職員レベル>

- 外部説明の意識付け

# 行動的プロセス

## <職員レベル>

- 評価担当職員の分析・説明力の向上

## <組織レベル>

- 事業見直し・業務分析
- 目標達成努力
- 対外説明への利用

# まとめ

- 公共図書館では、図書館評価が、認知・感情面、モチベーション面、行動面で、職員と組織に多様な影響を生じていた。

# 今後の課題

- 公共図書館全体で、どの程度の評価影響が生じているのか、またどのタイプの評価影響が多く生じているのか等、量的な分析が必要。
- 今後の図書館評価の改善につなげるためには、評価影響を促進する要因の分析が必要。

# 謝辞

ご多用中、調査にご協力くださった公共  
図書館の皆様に、深く感謝申し上げます。



## 参考文献①

- 図書館流通センター (2016)「平成27年度「生涯学習施策に関する調査研究」「公立図書館の実態に関する調査研究」報告書」120p.
- 全国公共図書館協議会 (2009)「公立図書館における評価に関する実態調査報告書 2008年度」79p.
- みずほ情報総研 (2009)「図書館の自己評価、外部評価及び運営の状況に関する情報提供の実態調査 報告書」160p.
- Herbert, J.M. (2014) “Researching evaluation influence: A review of the literature,” *Evaluation Review*. Vol.38, pp.388–419.
- Appleton–Dyer, S. et.al. (2012) “Understanding evaluation influence within public sector partnership: A conceptual model,” *American Journal of Evaluation*. Vol.33, pp.532–546.

## 参考文献①

- 図書館流通センター (2016)「平成27年度「生涯学習施策に関する調査研究」「公立図書館の実態に関する調査研究」報告書」120p.
- 全国公共図書館協議会 (2009)「公立図書館における評価に関する実態調査報告書 2008年度」79p.
- みずほ情報総研 (2009)「図書館の自己評価、外部評価及び運営の状況に関する情報提供の実態調査 報告書」160p.
- Herbert, J.M. (2014) “Researching evaluation influence: A review of the literature,” *Evaluation Review*. Vol.38, pp.388–419.
- Appleton–Dyer, S. et.al. (2012) “Understanding evaluation influence within public sector partnership: A conceptual model,” *American Journal of Evaluation*. Vol.33, pp.532–546.

## 参考文献②

- Johnson, Kelli et. al. (2009) “Research on evaluation use: A review of the empirical literature from 1986 to 2005,” *American Journal of Evaluation*, Vol.30, pp.377–410.
- Mark, M.M. and Henry, G.T. (2004) “The Mechanisms and outcomes of evaluation influence,” *Evaluation*. Vol.10. No.1, pp.35–57.
- Shulha, L. M. and Cousins, J. B. (1997) “Evaluation use: Theory, research, and practice since 1986,” *Evaluation Practice*, Vol.18, pp.195–209.
- Cousins, J. B. and Leithwood, K. A. (1986) “Current empirical research on evaluation utilization,” *Review of Educational Research*, Vol.56, pp.331–364.